

関わりたくなる

自

治

会

へ

～令和の住民の"関係性"を考える～

「住民が主体的に関われる自治会にしていくには？」
「他の地域ではどうしてるの？」

これからの時代に合った地域での住民同士の関係性について、
参加者同士でそれぞれが抱えるお悩みも共有しながら考えます！

日時

2026年 2月1日(日)
10:00～11:30

場所

中央区文化センター
1103+1104 会議室 (11階)

住所：神戸市中央区東町115番地 ※各線三宮駅から徒歩10分

参加費

無料

定員

50名(先着)

対象

自治会役員・会員

講師

株式会社HITOTOWA 執行役員
神戸市地域活動推進委員会 委員



奥河 洋介 氏

まちを楽しみ助け合う「ネイバーフッドデザイン」に取り組む。
マンション・団地・小学校区などで、近所におけるしがらみでも孤独でもないちょうどよい近所の持続的な関係性づくりに取り組む。
西宮市浜甲子園、神戸市名谷、大阪府島本町などの現場で、共助の仕組みづくりや共有地の利活用促進のプロジェクトを推進している。

申込方法

いずれかの方法にてお申込みください。

神戸市イベントサイト
「おでかけKOBE」▶



FAX (078-322-6133) ※以下①～⑥をご記載ください。

- ①氏名
- ②お住まいの区
- ③ご所属の自治会名
- ④電話番号
- ⑤メールアドレス(任意)
- ⑥今回の研修に期待すること

※サイト内のキーワードに「自治会」と入力するなどして検索してください。

申込期間 2026年1月9日(金) 9:00～1月25日(日) 23:59

関わりたくなる自治会へ

～令和の住民の“関係性”を考える～

2026.2.1

HITOTOWA INC.

奥河洋介

問い合わせ

神戸市役所 地域協働局地域活性課

TEL | 078-322-6492 FAX | 078-322-6133



1. 趣旨説明、講師自己紹介
2. グループで自己紹介、お悩みシェア
3. レクチャー①「現在の自治会を取り巻く状況」
4. レクチャー②「より良くしていくためのヒント」
5. グループで感想共有・質問・意見交換
6. ふりかえり、まとめ

奥河 洋介(OKUGAWA Yosuke)

HITOTOWA INC. 執行役員
神戸市地域活動推進委員会 委員
西宮市生涯学習・地域づくりコーディネーター
一般社団法人ひょうご縮充Lab 理事

職場は自宅。3歳の息子の子育て中。
輪番で回ってきた自治会の班長
セネガル／養父市／南三陸町／十三／浜甲子園

●兵庫県西宮市浜甲子園エリアで850世帯の新設のまちづくり組織「一般社団法人まちなね浜甲子園」を立上げ、事務局長を6年つとめてから住民に引継ぎ。



- ・近所の関係性が、「ある」or「ない」は、人生の豊かさに大きく影響する
- ・「昭和なしがらみ」ではない、時代に合った適切な近所の関係性があるはず。
- ・「徹底的に寄り添う外部者」として、「地域に追い風をつくる存在」になれば。

HITOTOWA Inc.

<ネイバーフッドデザイン事業>

人々のつながりをつくりながら、都市や暮らしの課題を解決していく
マンションや戸建街区のコミュニティ、エリアマネジメントを展開



これまでの地域活動／自治会活動に敬意。
大変な中、踏ん張る皆さまが、地域を支えている。

でも、「住民からは文句を言われる」
「行政からは頼まれる」「次の担い手は見つからない」
板挟みになっているのが自治会役員。

がんばり続けても、社会が変化したことで、
従来通りではうまくいかなくなってきた。

近所の関係性の大切さは変わらない。むしろ増している。

より良くなる方法を、皆さんと一緒に考えたい。

参加者約「50名の、申込時の「研修に期待すること」

大きく4つの期待があることがわかりました。

①担い手不足・高齢化・固定化への危機感

役員のなり手がいない。同じ人に負担が集中。高齢化が進み、活動が先細り。「このままで続くのか」という不安

②他の自治会はどうしているのか知りたい

成功事例・失敗事例を知りたい。うまくいっている自治会との違いを知りたい。自分たちだけが大変なのか確認したい。

③若い世代・マンション住民・新旧住民との関係性

若い人が参加しない。マンションと既存自治会の距離。新しく入ってきた人との接点づくり。

④自治会そのものの意味・役割理解を深めたい

自治会って何のためにあるのか。やらなくていいこと／やるべきことは？ 昔のやり方のままでいいのか。

期待を踏まえて講座の内容を検討・作成しています。

一方で、全てわかりやすい答えがある課題でもないです。また、難しさの背景は地域事情に寄るところもあります。皆さんの姿勢を含めて、一緒によい時間をつくっていきましょう。

①自己紹介(区・自治会・役割・氏名)

②お悩みシェア

「今の自治会について、しんどいと感じていること」

(1人1分程度で。その後自由に意見交換)

近所の関係性が大切な理由

おおむね徒歩15分圏内(小学校の校区程度)を想定

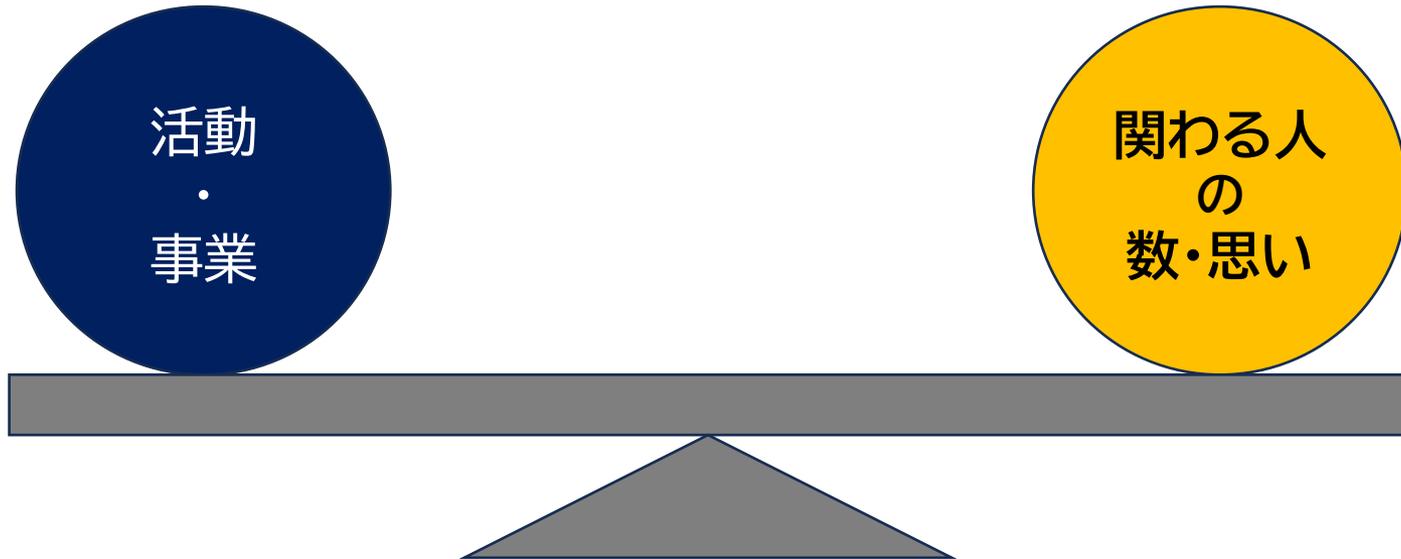
子育て時

高齢になった時

災害発時

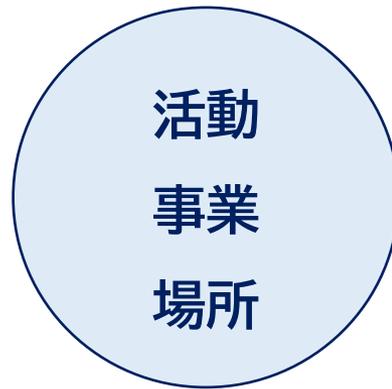


この状況になってから、近所の助け合える関係をつくるのは難しい。
この状況ではない時に、近所の関係性をつくっておく必要がある。
→この「危機感をあおる」だけでは、人は動かない

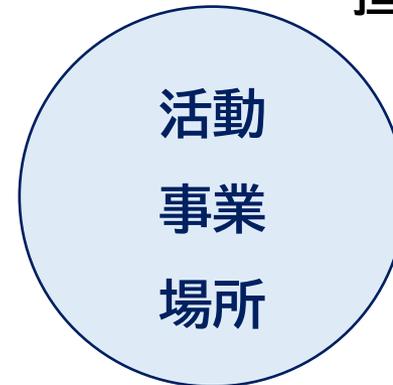


関わる人「担い手」について掘り下げて
考えてみましょう。

担い手とは？



(担い手)



やりたい人が
始める活動は
担い手が存在しない

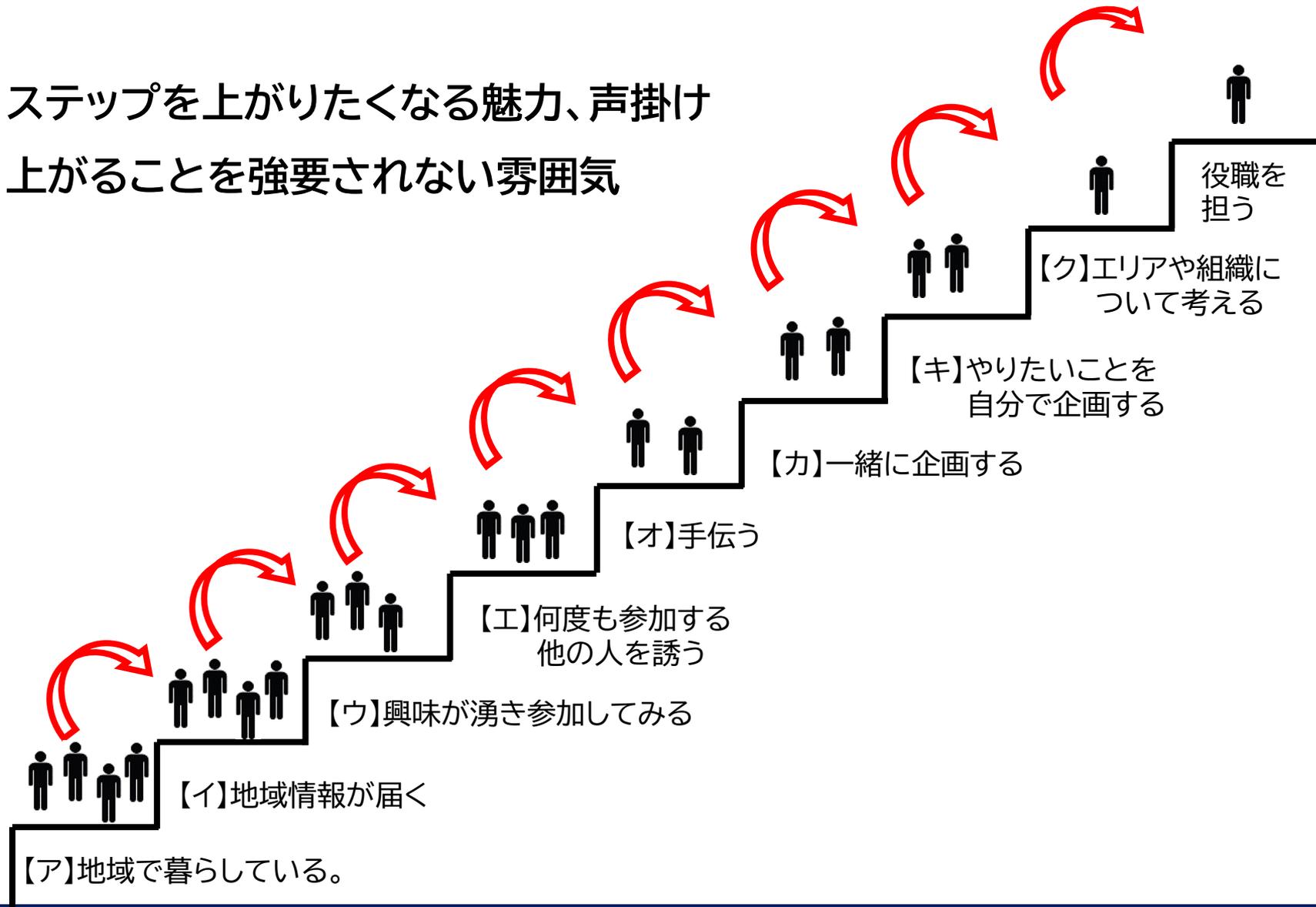
担い手とは何を担う人なのか？

何を担う人？	求める資質は？	対象となるのは？
役員(意思決定)	全体を見る視点 地域の人からの信頼	これまで地域活動に 貢献してきた人
事務局	事務のスキル 地域の人からの信頼	スキルがあって 理解のある人
既存活動のお手伝い	言われたことを やってくれる人	幅広い住民 関わる人
新たな活動	やりたいことや専門性を 持っている人	幅広い住民 関わる人

→担う役割により、声をかける対象者と、必要な資質は異なる

担い手は一日にしてならず

ステップを上がりたくなる魅力、声掛け
上がることを強要されない雰囲気





**参加者に個別に声をかけ、無理なく手伝える役割を提供
企画・運営する側の一体感・楽しさを味わってもらう**

担ってくれる人のモチベーションは？

14

地域活動が続けられるモチベーションは？

近所で知り合いや友人が増えて暮らしが充実した。楽しくなった。

地域活動により「ありがとう」と感謝され嬉しかった。

困っていた時に近所の人に助けられたので、同じような思いの人の力になれば

普段の生活では経験できないことを経験できる楽しさ

誰かの役に立っている。必要とされている実感。

楽しいことや魅力的な情報があふれている時代。
新たに地域活動に関わってみようと思った人にこんな思いになってもらえる場を提供していきたい。

新たに引っ越してきた地域で、「近所に知り合いをつくりたい」と、夏祭りの担い手募集のチラシを見て手を挙げてみた30代のパパ

【A地域】

- ・言われるがままに、汗だくになってテント設営を手伝う
- ・夏祭り中は、少し離れた駐輪場で自転車整理をずっと担当
- ・夏祭りの様子もわからないまま終了
- ・終了時にご苦労様と弁当をもらう
- ・事務局の男性に支持されたのが唯一の会話

団体運営
視点

近所に知り合いもできないまま二度と地域にはらない

【B地域】

- ・夏祭り開催への思いと運営体制をざっと説明してもらう
- ・夏祭り開催時間のうち2時間だけ焼きそばブースを中で手伝う。
- ・多世代のメンバーで共に汗を流して焼きそばを提供する充実感
- ・共に手伝いに入った初対面の方とお疲れ様とビールで乾杯。
- ・それ以外の時間は家族で夏祭りを楽しむ

担う人
視点

普段は忙しいけど、夏祭りだけは手伝い、少しずつ知り合いが増える

夏祭りでのブース出店

50年以上続く、夏祭り。担い手の高齢化により継続が危ぶまれる中、分譲マンションエリアの住民有志により、焼きそばとかき氷のブースの運営を行った。

短時間で、楽しみながら関われる体制をつくり新住民約40名がブースの中の人を体験、満足度が高かった。この日を楽しみに手伝いに来てくれる住民がたくさんいる。



「みんなで担う」へのシフト

17

■コミュニティはサービスではない。
 「する」-「される」の関係を薄める。
 みんなで楽しく担うへのシフト

サービス



コミュニティ



近隣の3つの社会福祉法人の送迎車両による地域見守り「みまもりタイガー」

青パトの乗車ボランティアの担い手不足が課題であった。一方で、近隣の3つの社会福祉法人は地域貢献の方法を模索しており、送迎車両が40台以上あることが判明。3つの事業者が連携して、共通の見守りステッカーを車に貼り、運転手の対応ルールを決めて、小学校で周知活動を行い、日々見守り活動を展開中。



キッチンカー誘致

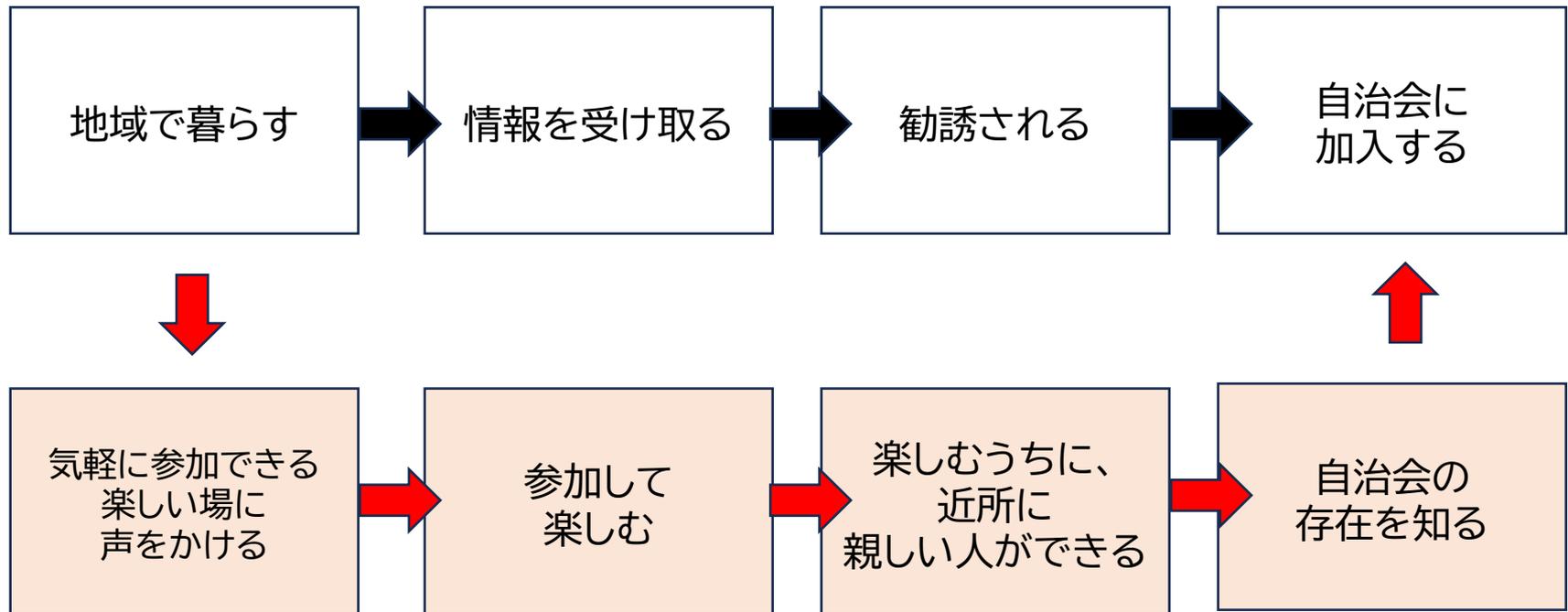
コロナ禍で、飲食系のイベントが実施できない状況に。屋外で保健所の許可を取ったキッチンカーに場所を提供し、営業してもらう。

月2回、毎回異なる種類のキッチンカーが来ることで、普段の活動に参加しない住民からも、団体が感謝される状況に。



近所の関係性が結果的に、自治会の理解促進につながる

20



→ 良好な関係性づくりを優先したほうが、結果的に加入につながる

最大のターゲットは、関わりのない人、つながりのない人
新たな人にこそ、最初に声をかける



1つの大きなコミュニティをつくろうとしない。
3~5人の小さなつながりで良い。孤立している人を減らす。



1対1の日常のコミュニケーションからはじまる事例

「行ってみただけどいつも常連が集まっているから、転入した私には行きにくい」
と新たな「シニアの遊び場」がうまれた。



転入して来て、保育所・幼稚園選びに困っている親の声から生まれた企画。在園保護者が、保育所・幼稚園について聞けるイベント。転入者が地域に関わるきっかけとなっている。



まちの変化、まちに生まれるストーリー



産前産後期を近所で協力しあったご近所



旦那さんを亡くしたおばあちゃんが元気に



パパたちのご近所忘年会



マンションの販売状況、住み替えを地域内で

グループで意見交換

①気づきの共有・意見交換

②質問（あれば1グループ2つまで。紙に書いて前へ。）

- 自治会がつくりたいのは、近所の関係性
- 活動は、関わる人(担い手)の思いがあつてこそ
- 組織視点ではなく、関わる住民目線
- 積極的に「やめる」「縮小する」「任せる」「まとめる」
- 従来の「当たり前」が、見直すヒントになる可能性